

徳澤周辺山行の思い出

期 日 平成22年8月11日(水)～8月14日(土)

場 所 徳澤園BC)～奥又白池
～蝶が岳

参加者 田辺浩二(72歳) 田中勝治(65歳) 福沢卓三(61歳)
(L) 横山高明(71歳) 4名 記録 横山高明

現役が前穂東壁登攀合宿を計画し、OBも奥又白池往復と蝶が岳往復山行を計画したが現役の計画が中止となったので急遽、4名で8月11日より8月14日までの日程で、徳澤園をBCに奥又白池往復と蝶が岳往復を計画した。

台風4号が日本海を北上する中、荒天を心配したが、蝶が岳を往復出来たことで、楽しい思い出となった。

8月11日(晴れのち雨)

コース時間(到着/出発) 田中宅(5:00)--金沢文庫(5:50)(田辺さんと合流)--横山宅(6:55/7:10)
横山車で--谷村PA(8:10/8:30)--諏訪湖SA(9:35/10:30)(福沢車と合流)--沢渡駐車場
(11:30/12:00)--上高地バスターミナル(12:15/12:30)--明神(13:25/13:45)徳澤園着(14:40)

北アルプス南部の天気予報は10日雷雨、11日はくもり時々雨、12日も雨で期待出来る天候では無さそうだ。

御殿場から河口湖、大月JCで中央道に、この時期、富士五湖道路から左に赤茶けた富士山を望めるのにガスの中だった。

諏訪湖SAで福沢さんと合流、沢渡でタクシーに乗換える、昨日は一時駐車場の地面が見えないくらい強い雨と雷が鳴ったそうだ、徳澤園まで天候が持つことを願いつつ

上高地で登山届を投函、ぽつぽつと雨が降りだした、家族連れとザックを背負った登山客が往来する中、明神で休憩昼食をとる。キスリングを背負う福沢さんが珍しいのか、幾つかのグループが振り返る。

雨粒は大きくなってきたが雨具を出さず徳澤園まで歩き通す、明神岳の中腹だけがガスの切れ間から見える。「夏は上宮川谷をトラバースして、ひょうたん池までブッシュをかき分け、アルバイトを強いられるので、70歳を超える年齢で、一日で往復する計画は無理では」と例会でアドバイスされたが、確かなことと明神から見て実感する。

徳澤園には15時までに着きたいと、思っていたがほぼ予定通り着くことが出来た。キャンプ地で水捌けの良い高台をえらびテントを張る、雲の切れ間に前穂の尾根が望める。ヘリコプターが横尾谷の方向に飛んで行った。夕食はキャンプ地の草原で蚊とブヨを警戒しながら摂る。田中さんは福沢さんのテントに、田辺さんと私、二人ずつ別れる、荷を置いても十分な広さが確保できる。台風4号は明日、能登半島沖から東北地方へ抜ける予定、天気予報は雨、本降りにならないければよいが、明日は4時30分起床6時出発の予定、夜中は時折テントを叩く雨音でよく眠れない。



徳澤園から茶臼の頭

8月12日（高曇りのち雨）

コース時間 徳澤園（6:00）--新村橋（6:20）--堰堤上（6:55/7:05）--
パノラマコース分岐（8:30/ 8:50）--徳澤園（10:15）

6時テントを後に、奥又白池を目ざす。新村橋まで河原を歩き、工事道に入る頃、ぽつぽつ雨が落ちてきた、「パノラマコースは残雪のため登山禁止」とロープ止めがある。我々は工事道から奥又白谷を堰堤まで詰め、左から山道に入り、ときにはブッシュをかき分け登る。



梓川の河原



奥又白谷を堰堤へ

雨が段々強くなり稜線はガスの中、8時30分パノラマコースと奥又白池の分岐を示すペンキからパノラマコースを少し登り奥又白池への道を探る、



パノラマコースから左の尾根に中畠新道が

地図上では、左のルンゼ（松高ルンゼ）と右の奥又白谷を分ける尾根の中を示めている。尾根の傾斜は約38度 この雨で取り付くのは無理と判断、今日の目的でもあったお線香を手向け、合掌して下山開始 雨が益々強くなる中、新村橋を渡り徳澤園へ戻ってきた。徳澤園でコーヒータイム、今日は長い日となりそうだ。明日を期待するが雨は何時止むことやら、テントの中でココアとコーヒー、お茶で沈没、23時頃トイレへ満天の星、明日を期待する

8月13日（晴れ夜半雨）

コース時間 徳澤園(6:00)--小休止(6:30/6:35)--1900m付近(7:25/7:35)--
2150m付近(8:40/8:50)--2400m付近(9:50/10:00)--長堀山(10:30/10:35)--
蝶が岳(11:35/12:30)--長堀山(13:15/13:20)--休憩(14:25/14:30)--2200m付近Yさんに
逢う(15:00/15:30)--1700m付近(17:44)県警救助隊にYさんを託す--(18:00)徳澤園

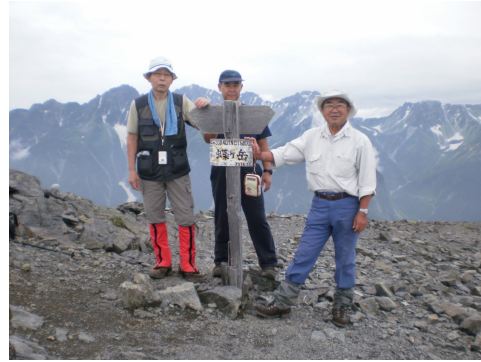
昨日と同じ6時にテントを出る、好天を期待しつつ徳澤園から蝶が岳へ、つづら折れの登山道を登りだす、時折鶯の鳴き声を聞く、樹林の間から梓川の河原と前穂の岩壁が望め、今日は雲の心配は無さそうだ。

休憩を挟みながら、尾根を右に巻くように登ると長堀山が近くなる、高度計が2501mを示すとひょっこり長堀山にでた。標高2564.9m 高度計の誤差64mは大きいな、蝶が岳へは幾つかの小さなコブを越える、妖精の池の周りは高山植物が花盛り、帰路に写真を撮ることにして、進むと程なくして這い松が出てきて、森林限界を越える。槍から西穂まで大パノラマが展開する 素晴らしい景色を堪能する。

暫くすると正面から見る景色に慣れ、前穂から屏風の頭までの山容の傾斜が分からないのが唯一の不満だ、奥又白谷の雪溪上部には大きなクレバスが幾つか走り、涸沢から北穂へ細い糸のように南稜ルートが見える。記念写真を撮り、時の経つのを忘れる。



前穂遠望



(左から田中・福沢・田辺)

常念にガスが懸ってきた。帰路を考え 12 時半下山開始 16 時には徳澤園に着くだろう。下山途中の 2200m 付近で、右足を捻挫し休んでいた Y さんに会う、先行した他の登山者に伝言したとのことであったが、田辺さんが連絡のため先行し、3 人で付き添い下る事に決める。福沢さんが所々背負い 1700m 付近まで降りた地点で、蝶が岳から下って来た県警救助隊に託し下山、18 時うす暗くなった徳澤園着 12 時間の長い蝶が岳登山を終えた。徳澤園には数十のテントが張られている、涼しいこのキャンプ地は恰好の避暑地だ。



徳澤園の テント村



ヤマハハコ

8 月 14 日 (雨)

コース時間 徳澤園(7:25)--明神 (8:25/8:30) --上高地 (9:15/9:40) --沢渡 (10:00/10:30)
--大月 J C--秦野 (14:30/15:00) --田中宅 (17:30/17:40) --田辺宅(18:20)

福沢さんは 16 日まで休暇があり、その間に北穂を登る予定でテントに残り雨の中 6 時半に撤収開始 7 時 25 分徳澤園をあとにする、雨は止む気配が無い朝から雨具とザックカバーのお世話になり、下着一枚の上に雨具を着るが中から汗を放出しきれない。続々と入山してくる登山客と小さな子供を連れた家族と行き違う、梓川も水量が多い、それでも徳本峠の登り口あたりから小降りになってきた。明神で一休み、上高地へワンピッチ、河童橋の人混みを通り抜け、バスターミナル 9 時 45 分到着、雨の多かった今回の山行を終えた。